

第2回千葉県産農林水産物輸出活性化検討会議

【結果概要】

1 日 時 令和6年3月22日（金） 10:00～12:00

2 場 所 自治会館

3 主な意見

（1）生産段階に関する意見

- ・取組方針に基づき「輸出拡大に向けた取組をいかに実行していくのか」が重要。
- ・少量では輸出の意義は感じにくいですが、産地の生産量の5%程度が輸出されていくことで、市場価格の安定や生産規模拡大につながっていく。千葉県においても大規模輸出産地形成の実行に期待したい。
- ・梨は、植えてからまとまった収穫量になるまで8年ほどかかるが、その特性を踏まえた中長期的な支援をお願いしたい。
- ・猛暑や干ばつが当たり前になっており、そうした気象条件に強い（さつまいもの）品種試験等を進めてほしい。
- ・生産者が輸出にあたって必要な知識が得られるように、産地ごとのセミナー開催等を検討してもらいたい。

（2）販売段階に関する意見

- ・輸出先のニーズを明確化し、生産現場とマッチングするスキームが必要。
- ・加工食品を含めると（商談等における）提案の幅が広がる。
- ・単に青果物を輸出ではなく、食べ方の提案まで行う必要がある。
- ・同じ品目でも、産地による品質の違い等をレストラン等にしっかり説明し、逆指名してもらえるような広報の取組が重要。
- ・加工度が低いシロップ漬け等であれば、生鮮基準で輸出できるため、そういった視点での加工支援に期待したい。

（3）成田市場、成田空港に関する意見

- ・成田市場での売買の活性化や周辺ホテルでの県産農林水産物の需要の取り込みが重要。
- ・成田空港を利用する外国人に千葉県のファンになってもらう取組も有効。